

資 料 4

～短期目標の総括・今後の取組方針（案）～

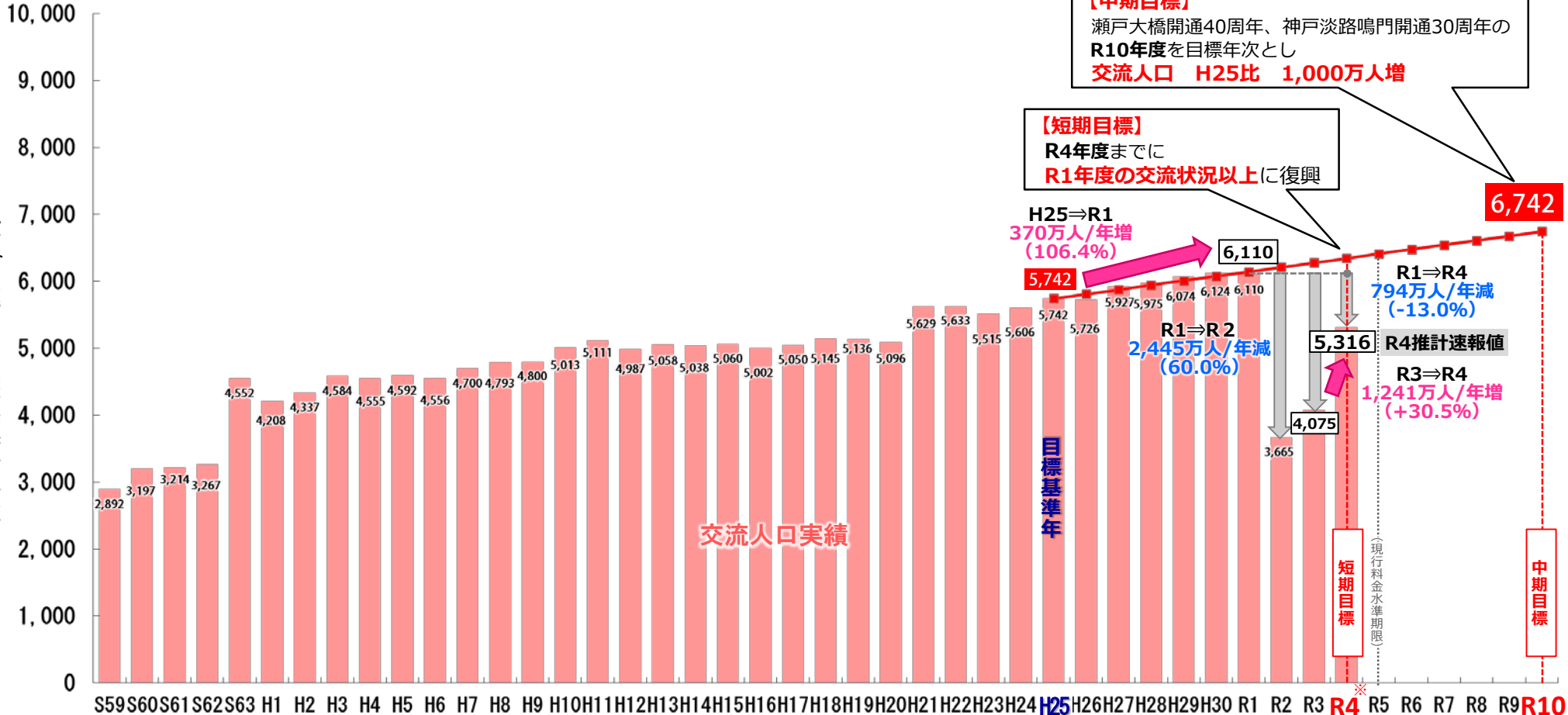
目標に対する本州四国間の交流人口の推移

R4速報値



○R4年度の速報値※は、R1年度比 **約794万人/年（約13%）減**、R3年度比 **約1,241万人/年（約31%）増**

◆交流人口の実績の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」等より作成

注; R4年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新する (R5.7時点)

※R4年度の交流人口の内、自動車・鉄道・フェリーは実績値

航空機は1年遅れで実績値が出るため、R4年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いてR4年度で推計値として算出している

(R3年度旅客流動調査データ/R3年度「四国における運輸の動き」データ) × R4年各月「四国における運輸の動き」データ = 各月の推計交流人口

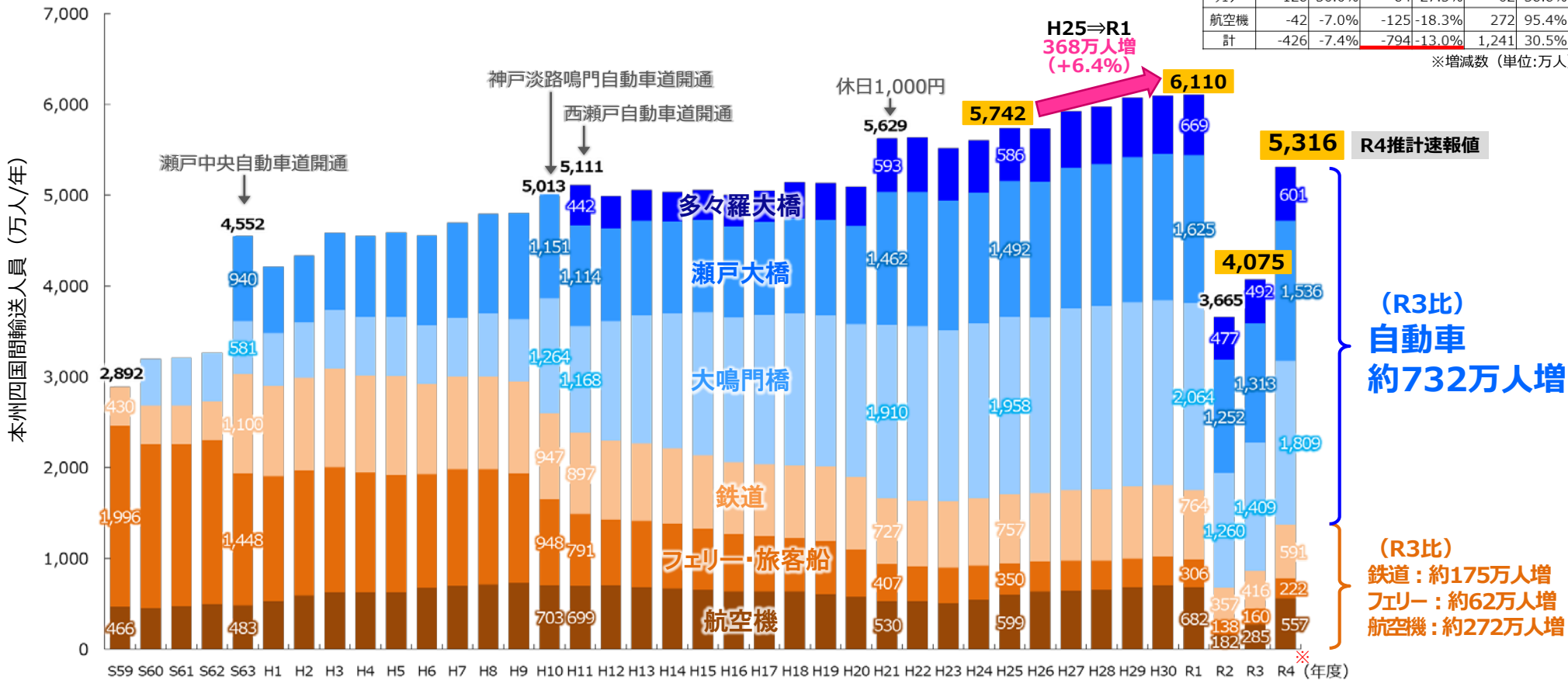
交通機関別の交流人口の推移

R4速報値



- R4年度速報値※は、R1年度比 **自動車:約10%減**、**航空機:約18%減**、**鉄道:約23%減**、**フェリー:約28%減**となっている
- R3年度比では **自動車:約23%増**、**航空機:約95%増**、**鉄道:約42%増**、**フェリー:約39%増**となっている

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移



R4推計速報値

(R3比)
自動車
約732万人増

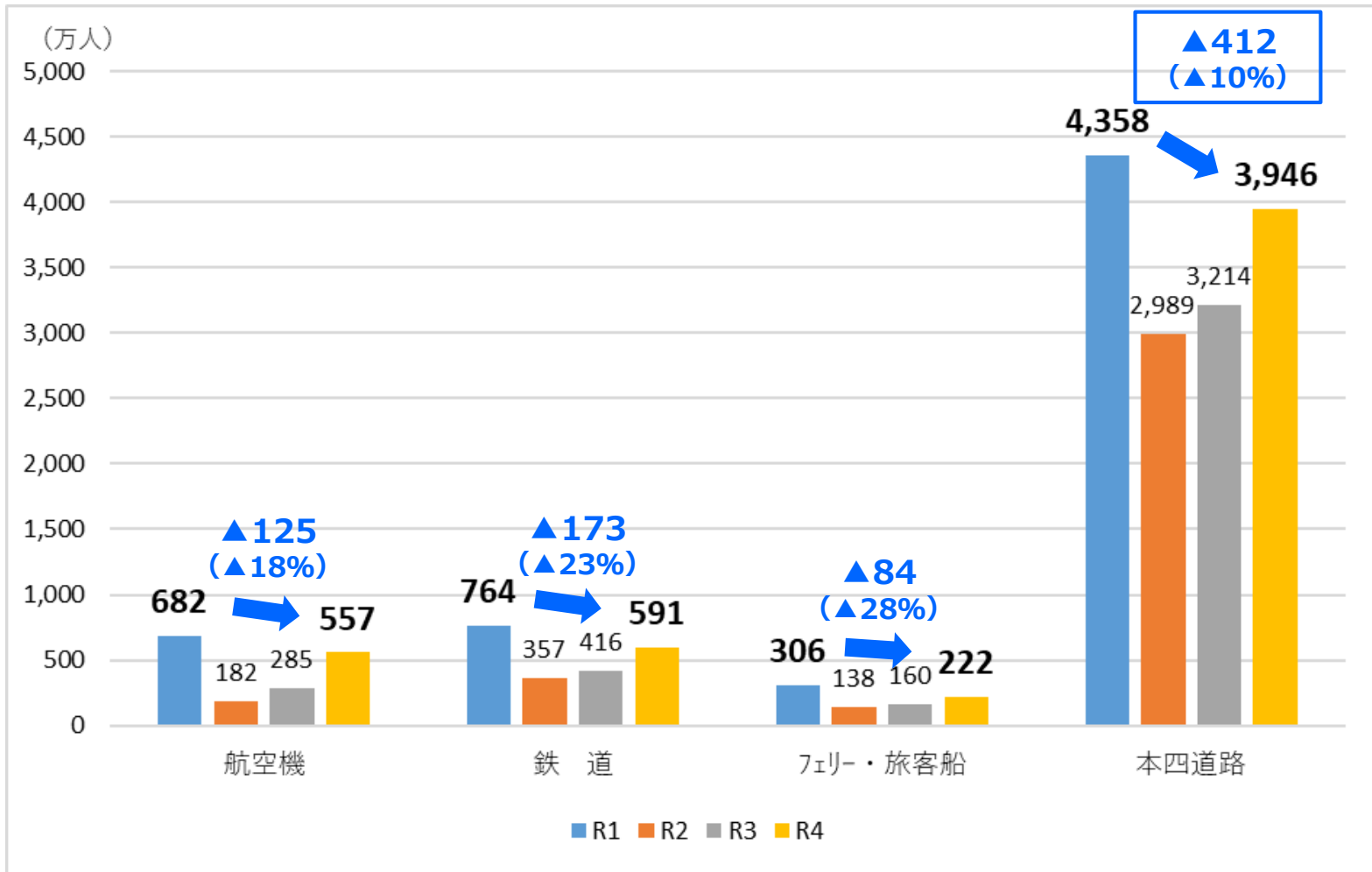
(R3比)
鉄道: 約175万人増
フェリー: 約62万人増
航空機: 約272万人増

出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成
注1:瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2:大鳴門橋、瀬戸大橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋
注3:R4年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新する (R5.7時点)
※R4年度の交流人口の内、自動車・鉄道・フェリーは実績値
航空機は1年遅れで実績値が出るため、R4年度4月~3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いてR4年度で推計値として算出している
(R3年度旅客流動調査データ/R3年度「四国における運輸の動き」データ) × R4年度各月「四国における運輸の動き」データ = 各月の推計交流人口

交通機関別の交流人口の対R1年度以降の比較

- R1年度比 **約794万人/年（約13%）減**のうち、**自動車利用は約412万人と約半分**を占める
- 交流人口の回復には**自動車交通の回復も重要**



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1:瀬戸大橋開通（1988年4月）以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2:瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

注3:R4年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新する (R5.7時点)

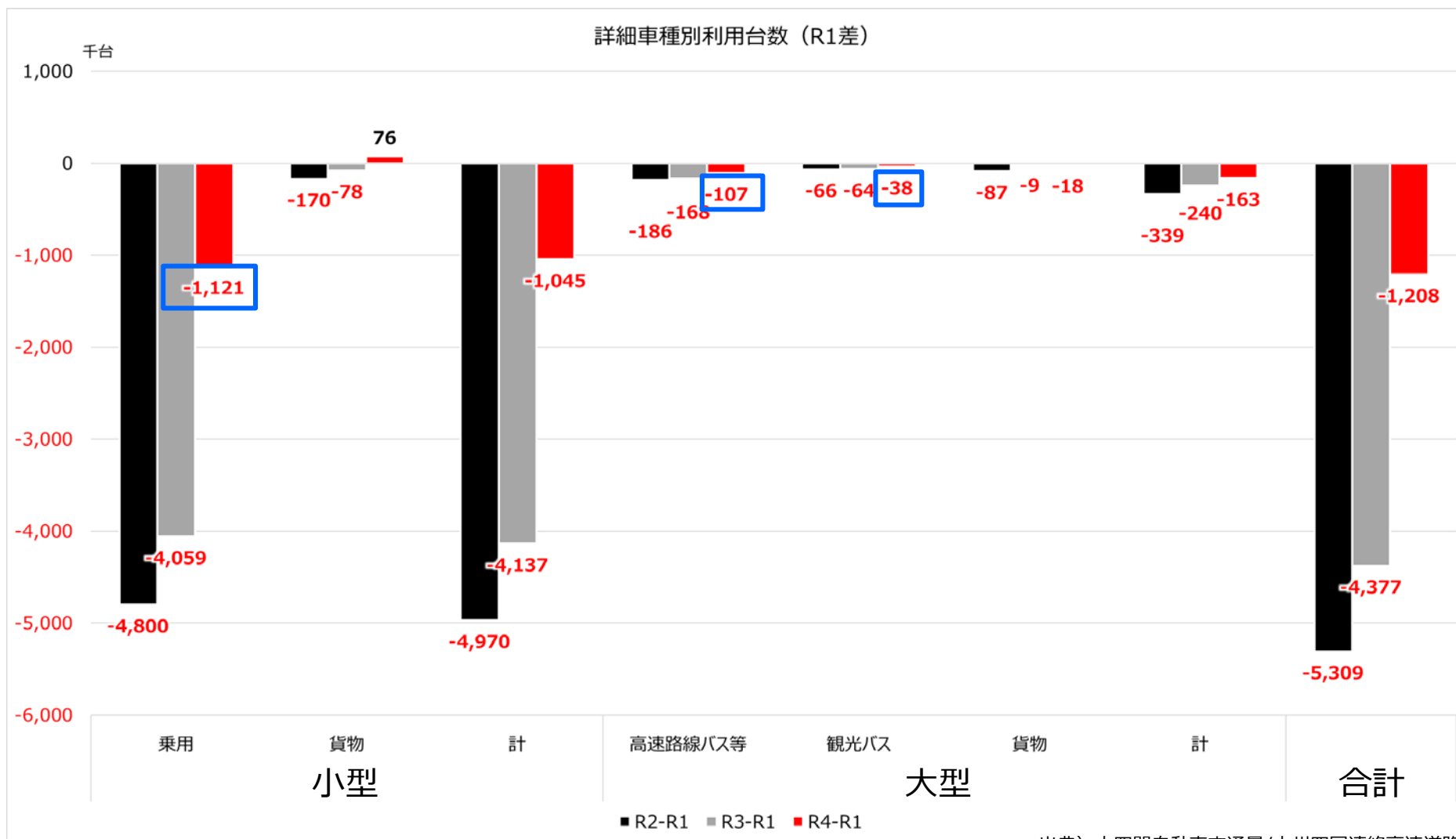
※R4年度の交流人口の内、自動車・鉄道・フェリーは実績値

航空機は1年遅れで実績値が出るため、R4年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いてR4年度で推計値として算出している

(R3年度旅客流動調査データ/R3年度「四国における運輸の動き」データ) × R4年各月「四国における運輸の動き」データ = 各月の推計交流人口

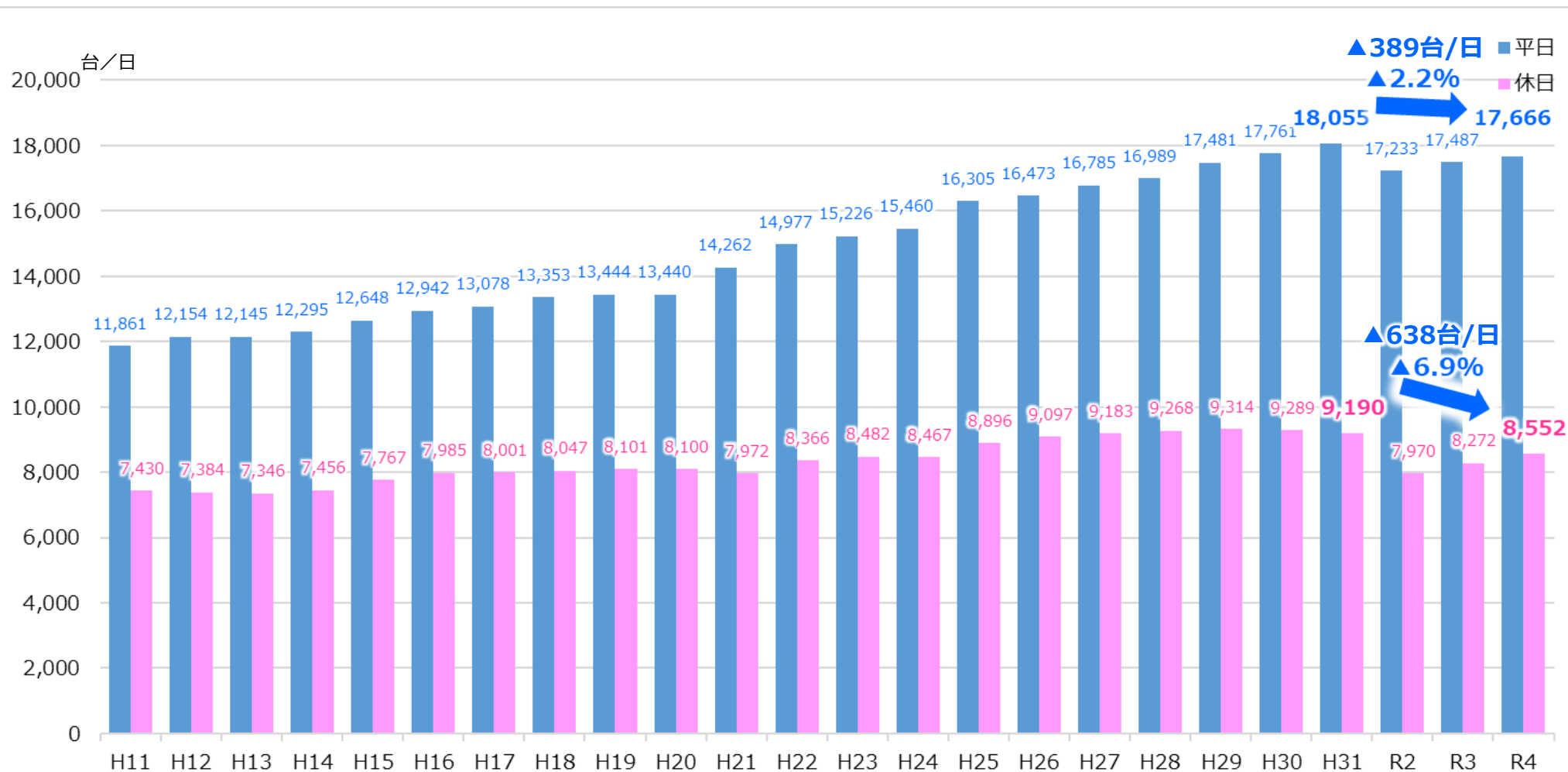
車種別利用台数のR1年度との比較

- R4年度の車種別利用台数のR1年度との差は、**全体で約121万台減**で、**小型車が約105万台減**、**大型車が約16万台減**
- 小型車は、**乗用が約112万台減**と大部分を占める
- 大型車は、**高速路線バス等が約11万台減**、**観光バスが約4万台減**とバスが大部分を占める
- 以上から、交流人口の減は、**乗用（小型車・バス）の利用減によるもの**

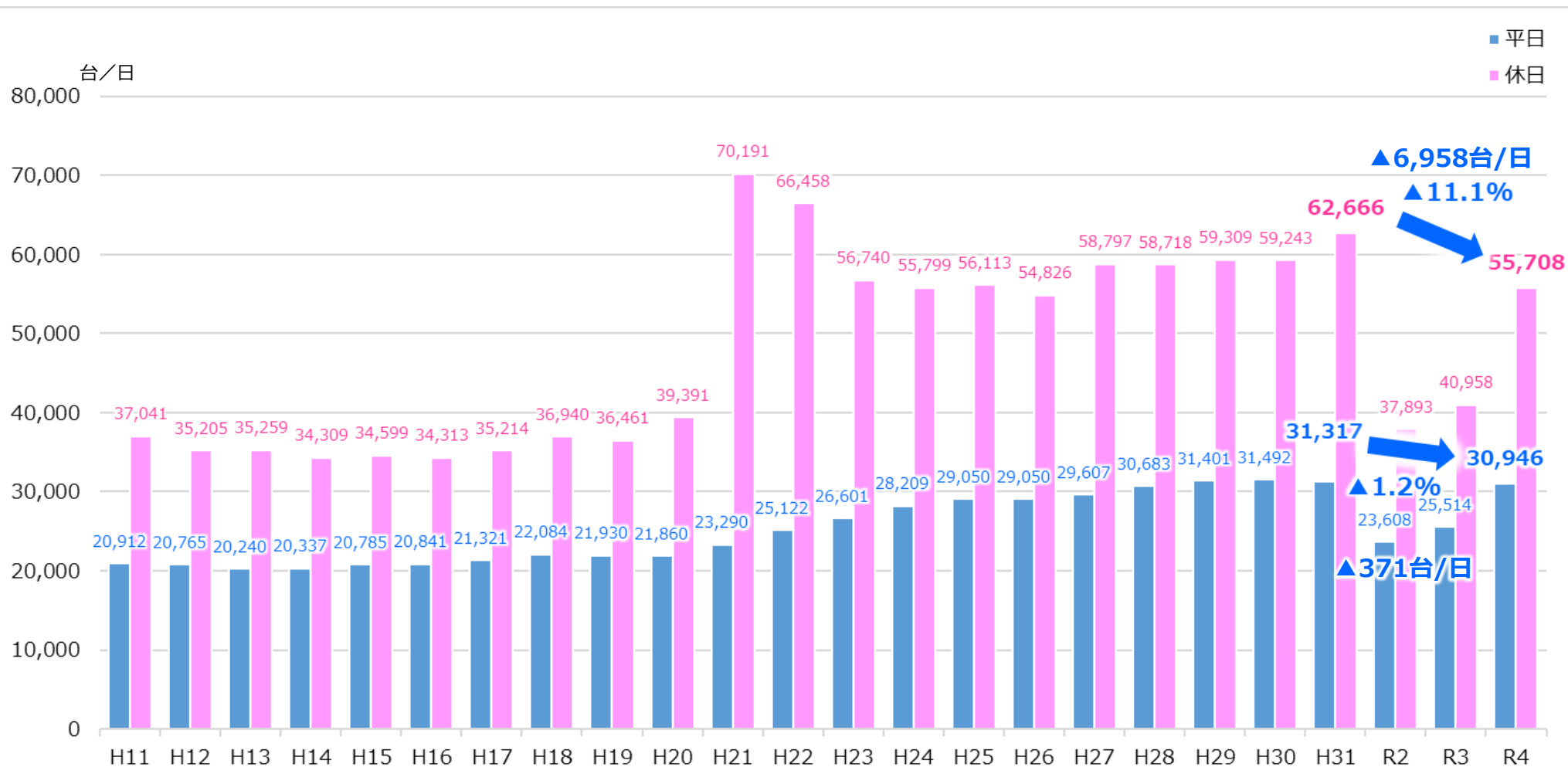


○R4年度の大型車交通量は、R1年度比で平日（繁忙期期間を含む）は**2.2%減**と概ね回復

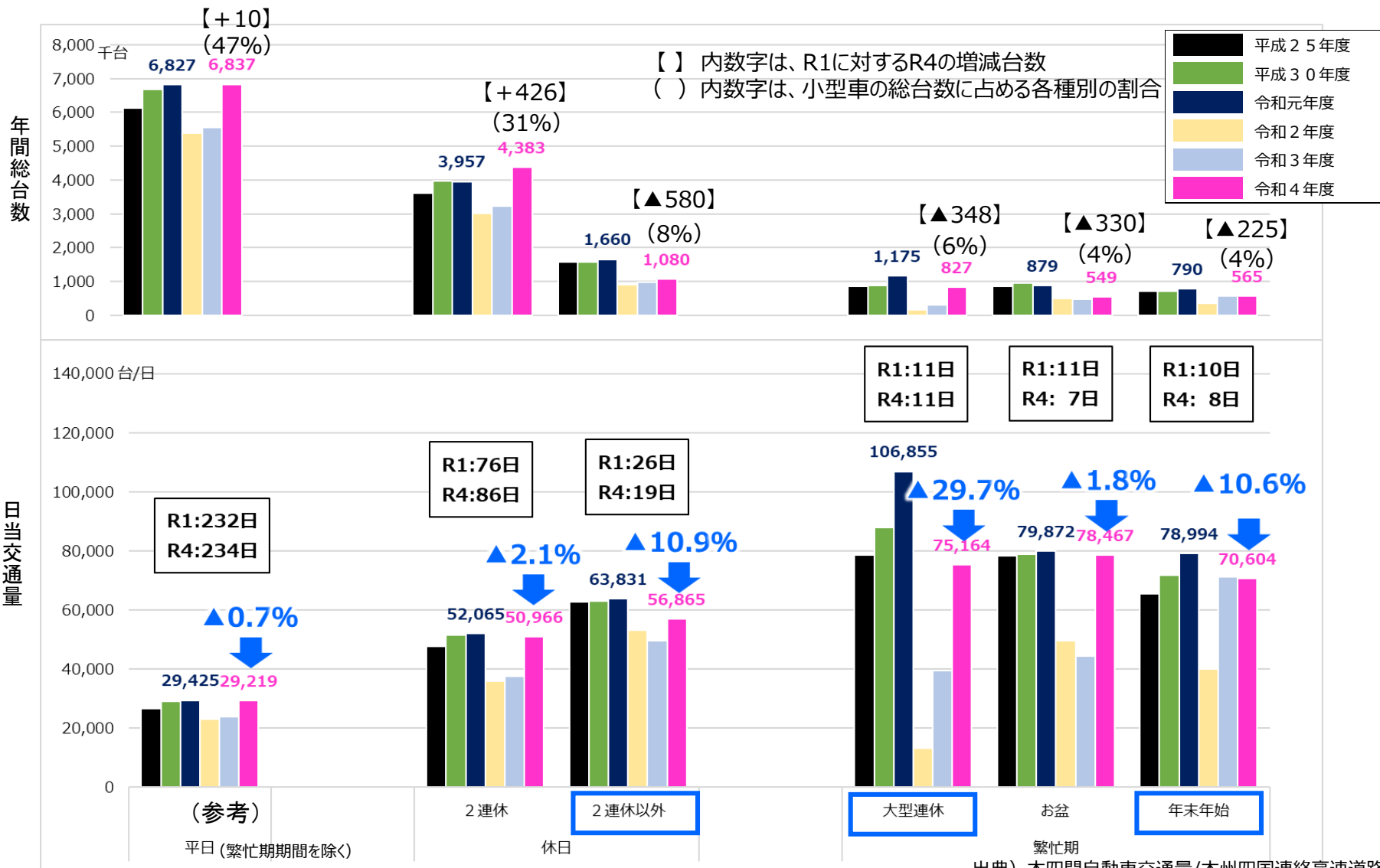
○一方で、休日は**6.9%減**と平日に比べて回復していない



- R4年度の小型車交通量は、R1年度比で平日（繁忙期期間を含む）は**1.2%減**と概ね回復
- 一方で、**休日**は**11.1%減**と回復していない

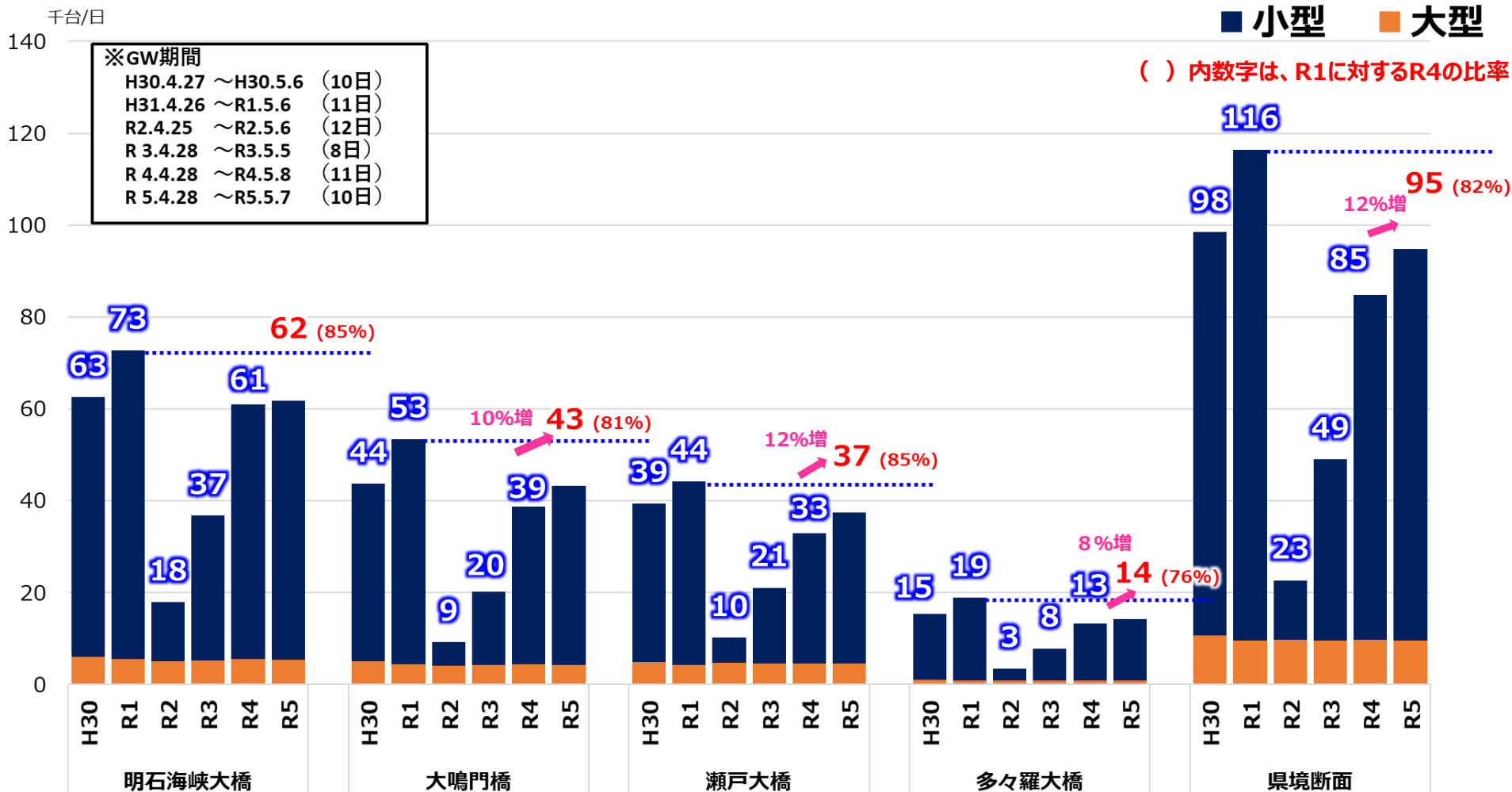


- R1年度比で、2連休及びお盆期間は**2.0%減**と概ね回復
- 一方で、2連休以外、大型連休（GW）、年末年始等の主に長期連休は**10～30%減**と回復していない
- 自動車交通の回復にあたっては、落ち込み率の大きい**2連休（土日）**以外の休日の回復が必要



R5大型連休（GW）の交通量【県境3橋計】（R1年度比）

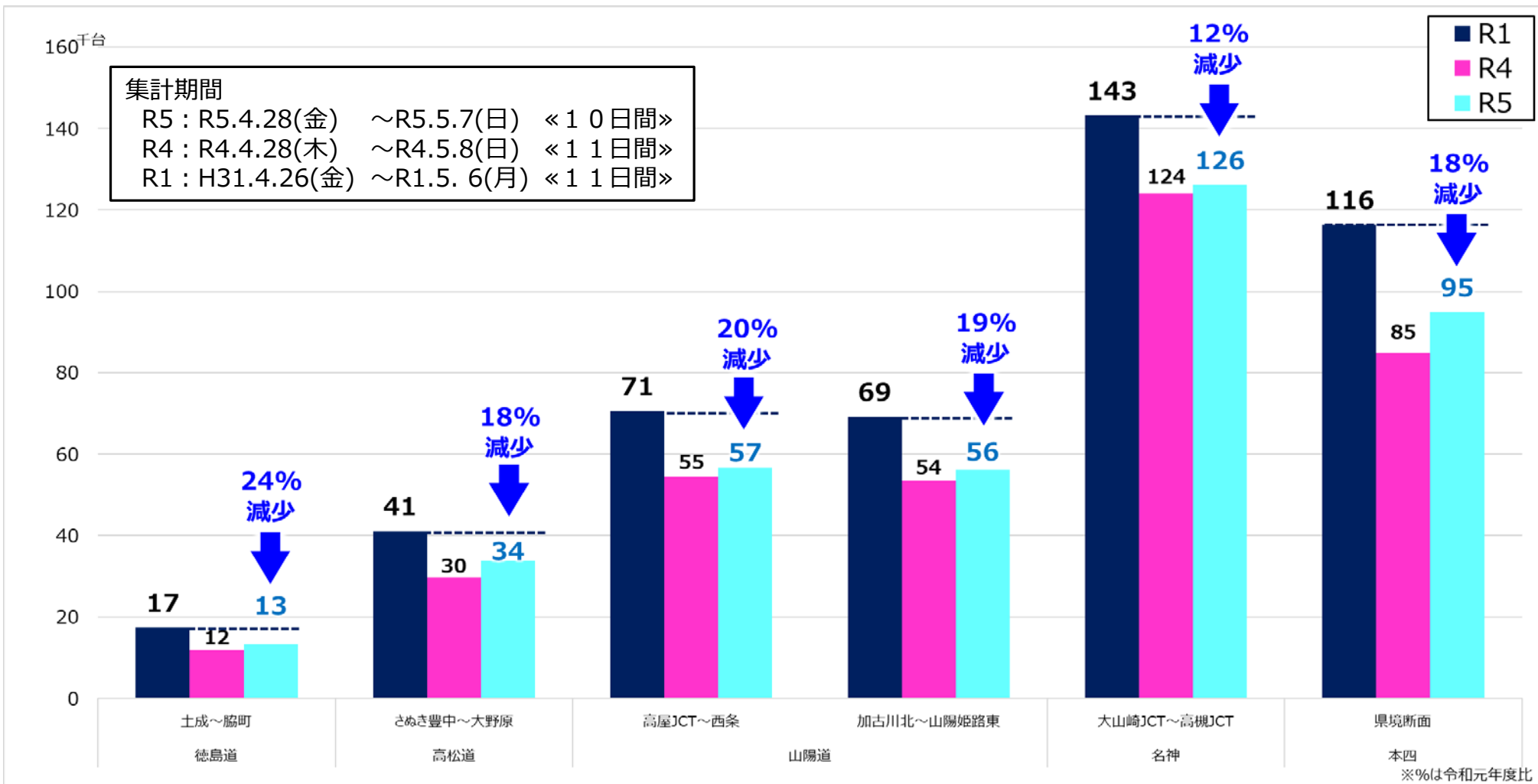
- R4年度比で、大鳴門橋**10%増**、瀬戸大橋**12%増**、多々羅大橋**8%増**、県境断面**12%増**と増加傾向
- 一方、R1年度比で、大鳴門橋**19%減**、瀬戸大橋**15%減**、多々羅大橋**24%減**、県境断面**18%減**と回復していない



(参考)

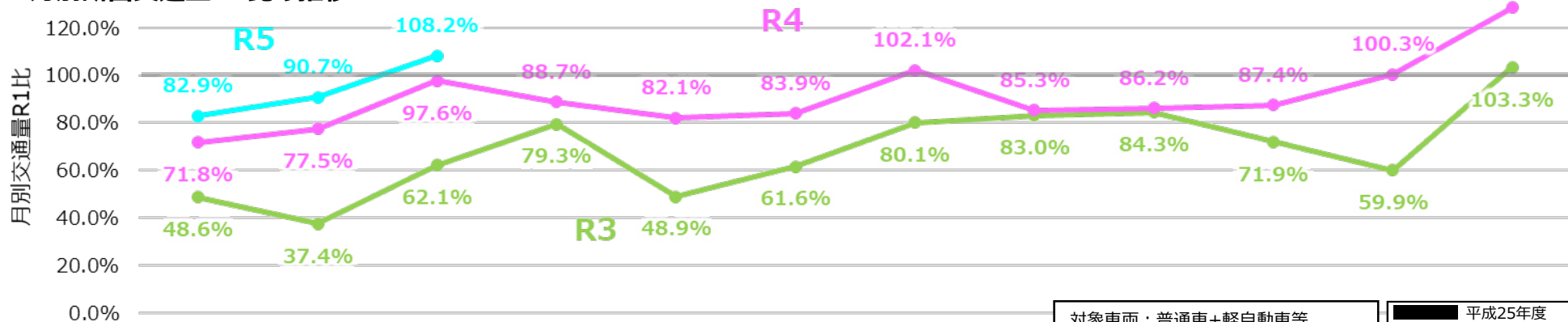
R5大型連休（GW）の本四高速道路周辺道路の交通状況変化

○近畿・中国・四国地方の各高速道路も、R1年度に比べ**12～24%減**と、本四道路と同様に**8割程度までの回復にとどまっている**

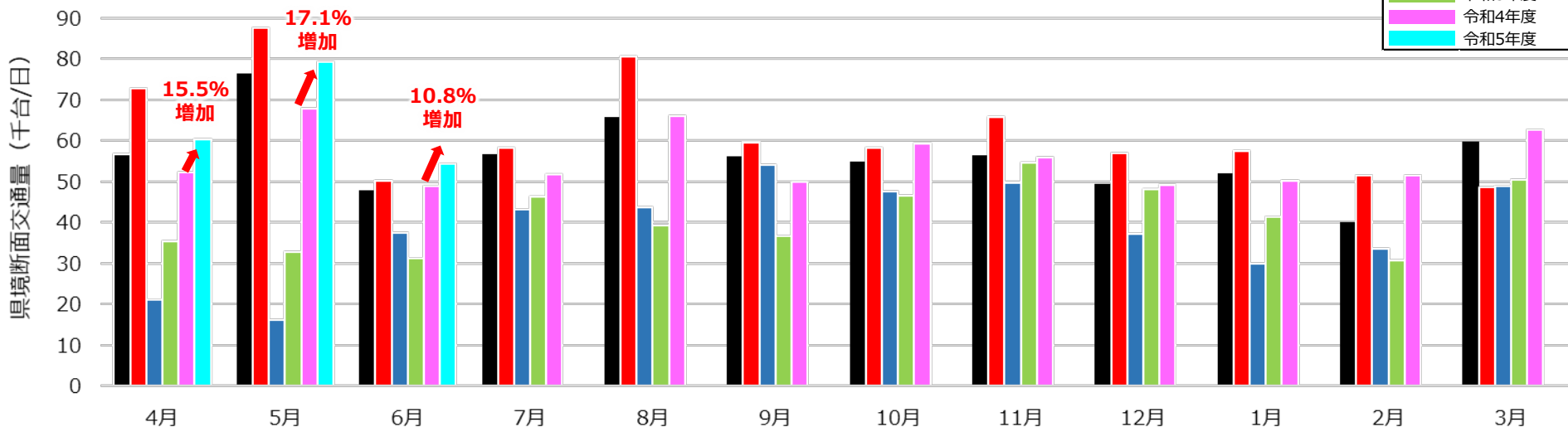


- 観光目的である小型車（土日祝）のR4年度実績は、R1年度比では、10月、2月、3月で上回ったものの、71.8%～128.5%で推移し、R4年全体は**10.9%減**と回復していない
- R5年度実績は、4～6月までR4年度比で**約10～17%増**と増加傾向
- R1年度比では、4月、5月は**10%以上の減**であったが、6月は**約8%増**と回復

●月別断面交通量R1比の推移



●月別断面交通量の推移

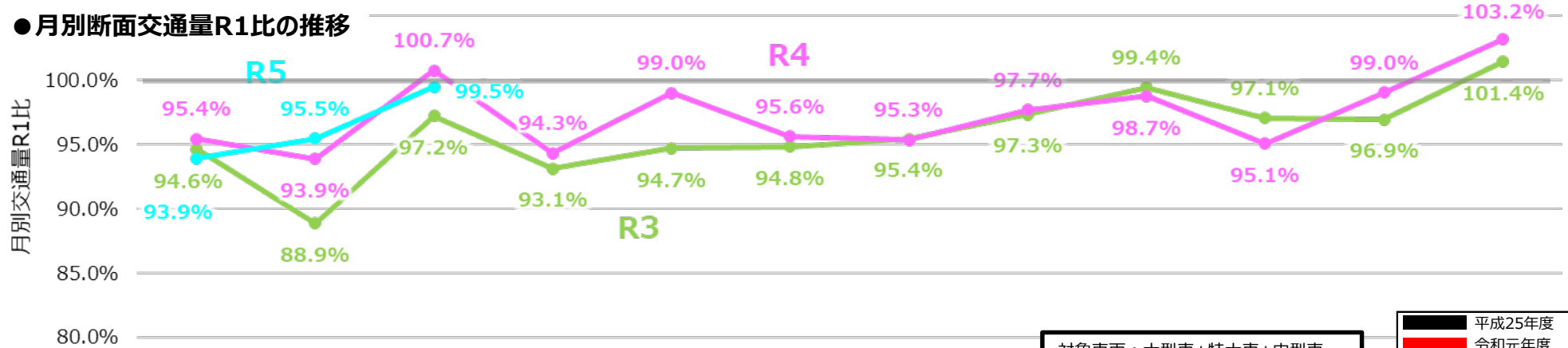


対象車両：普通車+軽自動車等
対象日：土日祝

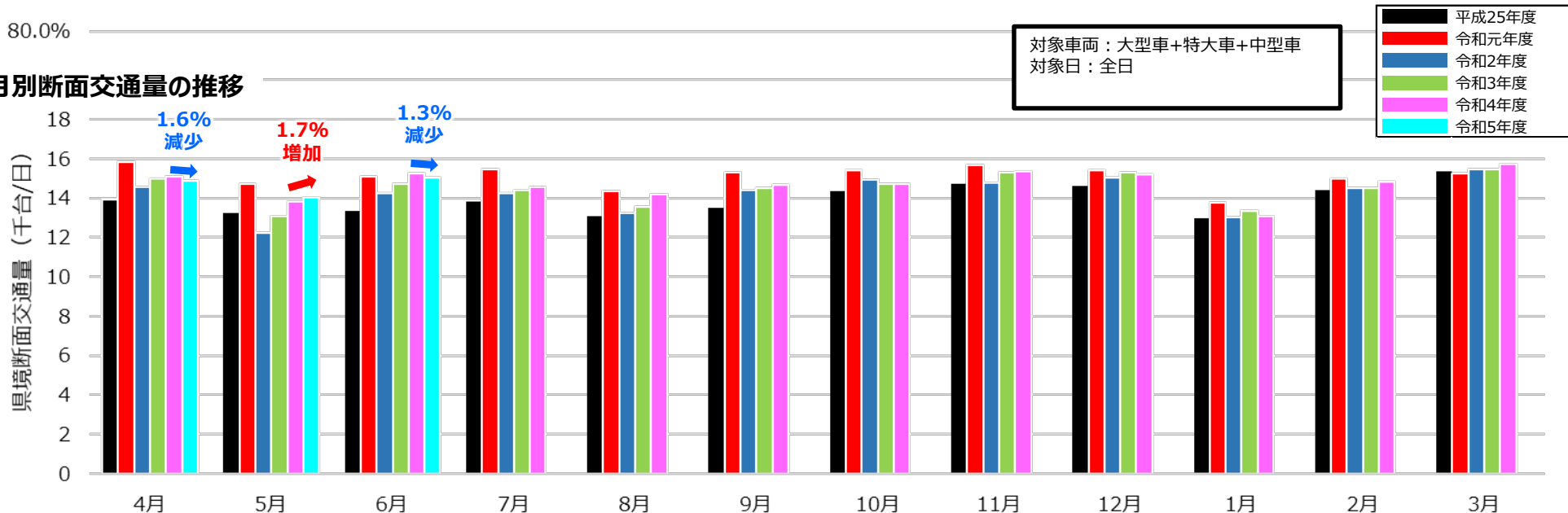
- 平成25年度
- 令和元年度
- 令和2年度
- 令和3年度
- 令和4年度
- 令和5年度

- 産業目的である**大型車（全日）**のR4年度実績は、R1年度比では、6月、3月で上回ったものの、93.9%～103.2%で推移し、**R4全体は2.7%減**と微減の状況
- R5年度実績は、R4年度比で4月は**1.6%減**、5月は**1.7%増**、6月は**1.3%減**と概ね横ばい
- R1年度比では、4月は**6.1%減**、5月は**4.5%減**、6月は**0.5%減**と回復傾向

●月別断面交通量R1比の推移



●月別断面交通量の推移



R4年度の状況 休日の小型車（乗用）、大型車（バス）の利用台数が**回復していない**

考えられる要因 **観光需要の落ち込み**
行動変容（平日観光へのシフト、団体から個人利用へのシフト等）

取組の方向性 休日の観光利用の小型車・大型車（バス）の回復が必要

調査分析による施策の方向性の整理

自動車交通の利用実態 等
（目的、発着地、頻度等）

- ・ 道路利用実態の更なるデータ分析
- ・ 道路利用者に対するアンケート調査 等

バス交通の利用実態 等

- ・ バス事業者へのヒアリング調査 等

観光需要の把握 等

（インバウンド、働き方改革、シニア層アクティブ化等）

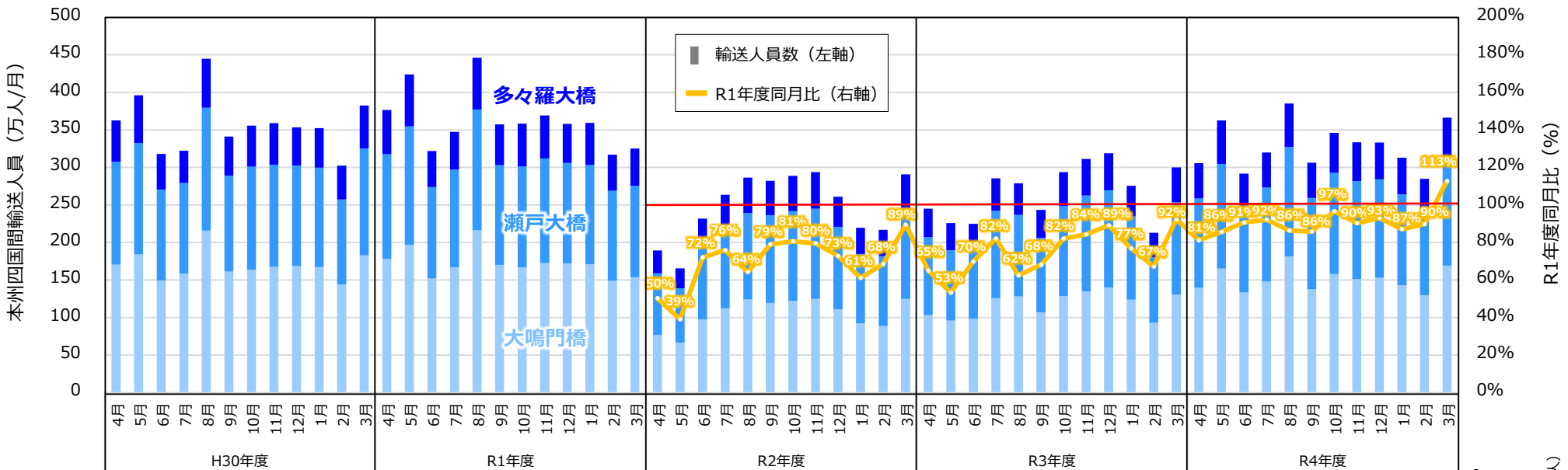
- ・ 文献調査、ヒアリング調査 等

四国～四国外における交通モード別交流人口の推移（自動車：本四3橋計）



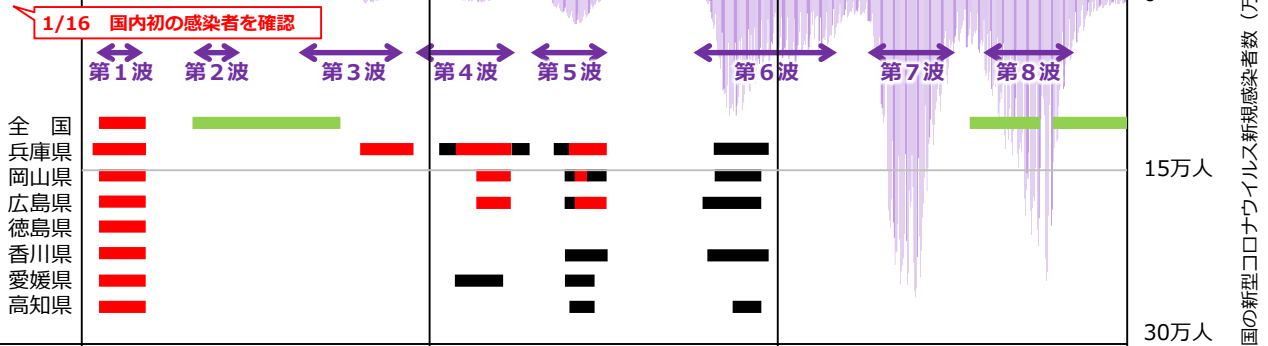
○R2年度以降、新型コロナウイルスの影響等に伴い増減を繰り返したが、R4年度はR1年度の9割程度まで回復

●自動車（本四3橋計）の月別本四間輸送人員の推移



●全国の新型コロナウイルス新規感染者数と緊急事態宣言等の実施状況

- ：新型コロナウイルス新規感染者数（全国）
- ：緊急事態宣言
- ：まん延防止措置
- ：GoToトラベル又は全国旅行支援



●自然災害による本四3橋計の通行止め時間数（時間/月）

年度	8月	1月	9月	1月	8月	12月	9月	1月
H30年度	31.0	12.0						
R1年度		10.3						
R2年度			14.8	13.5, 3.3, 4.4				
R3年度					5.0	17.0, 3.1		
R4年度						12.5, 15.5	12.5	48.3 (瀬戸大橋), 26.2 (大鳴門橋)

注:大鳴門橋、瀬戸大橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

出典) 本州四国間輸送人員・通行止め時間数/本州四国連絡高速道路株式会社
新型コロナウイルス新規感染者数/厚生労働省

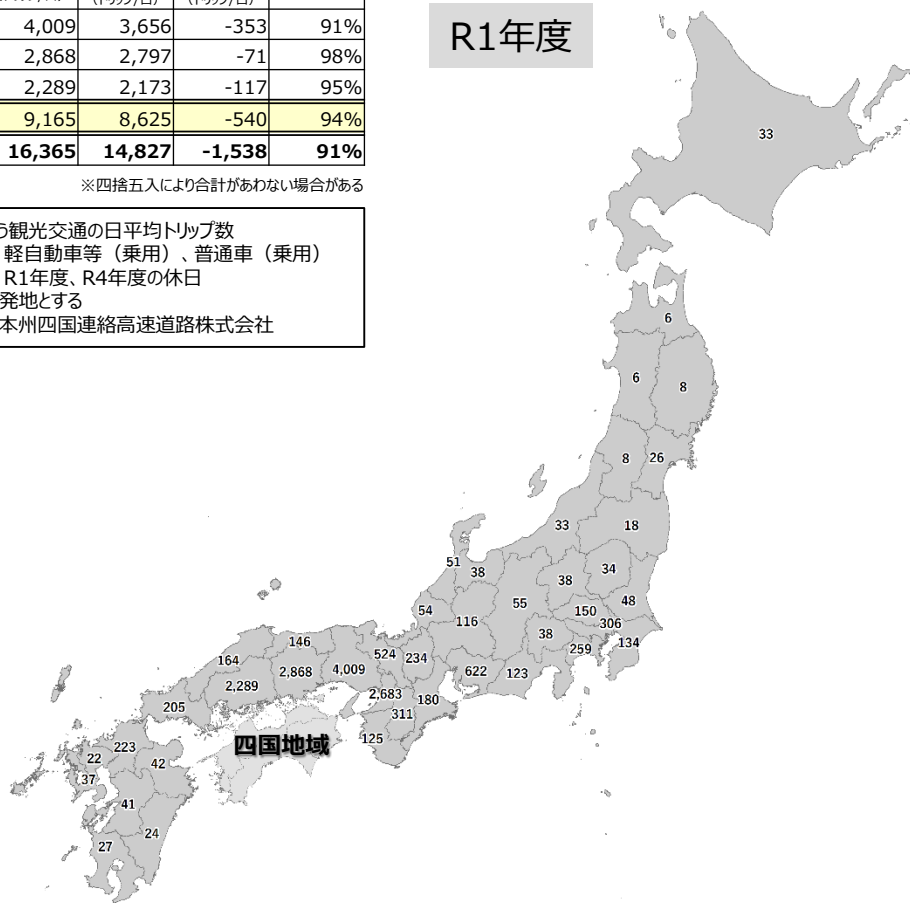
- 新型コロナウイルス感染拡大により、R1年度に比べ四国に向かう観光交通は減少しているが、R4年度は全国で約91%まで回復
- 四国との交流で大半を占める環瀬戸エリア（兵庫県・岡山県・広島県）も9割以上回復しているが、日平均トリップ数でみると、約-350~-70トリップ/日となっている

県名	R1年度 日平均 トリップ数 (トリップ/日)	R4年度		
		日平均 トリップ数 (トリップ/日)	増減数 対R1年度 (トリップ/日)	R1年度比 (%)
兵庫県	4,009	3,656	-353	91%
岡山県	2,868	2,797	-71	98%
広島県	2,289	2,173	-117	95%
3県計	9,165	8,625	-540	94%
全国	16,365	14,827	-1,538	91%

※四捨五入により合計があわない場合がある

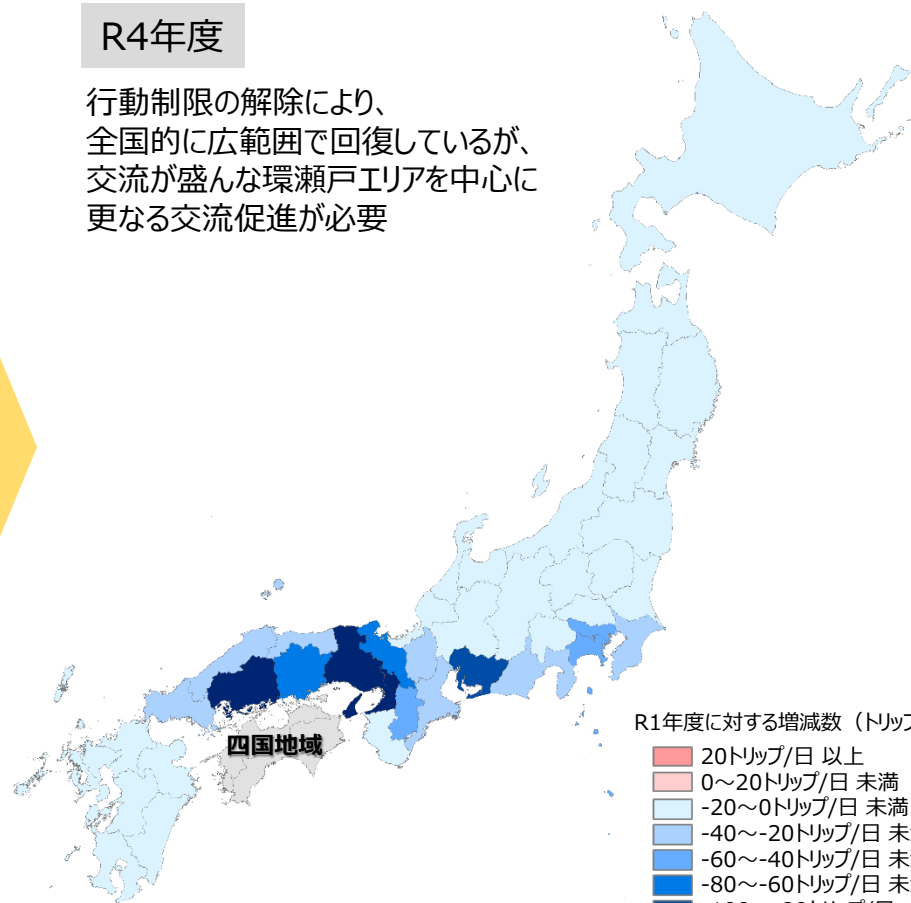
四国に向かう観光交通の日平均トリップ数
 対象車両：軽自動車等（乗用）、普通車（乗用）
 対象年月：R1年度、R4年度の休日
 車籍地を出発地とする
 ETCデータ/本州四国連絡高速道路株式会社

R1年度

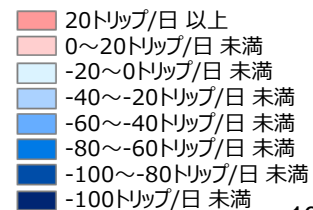


R4年度

行動制限の解除により、全国的に広範囲で回復しているが、交流が盛んな環瀬戸エリアを中心に更なる交流促進が必要



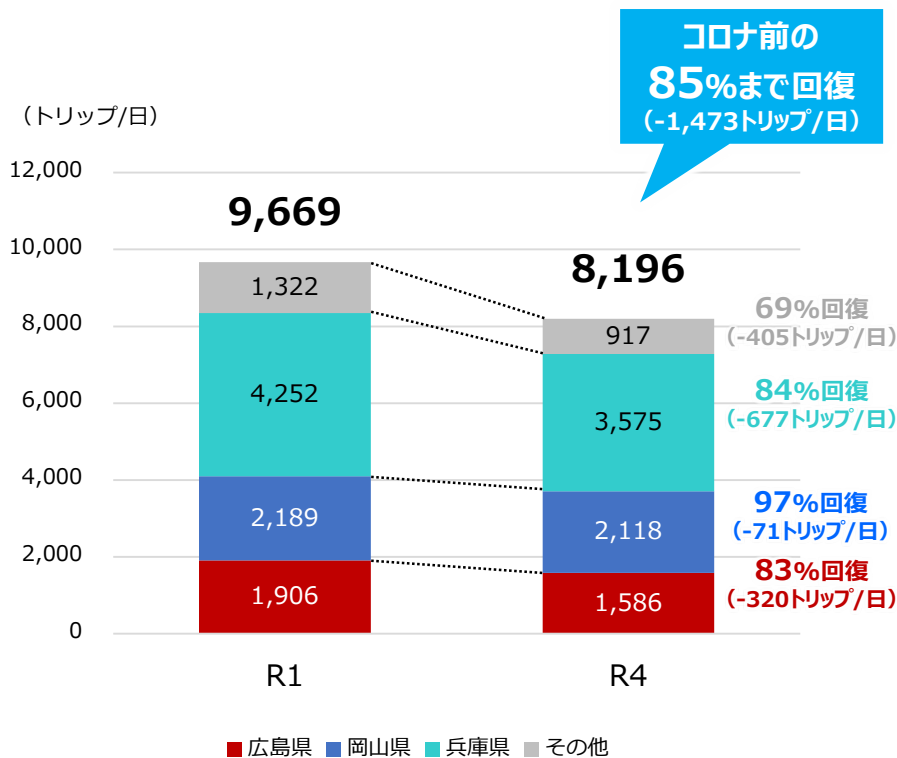
R1年度に対する増減数（トリップ/日）



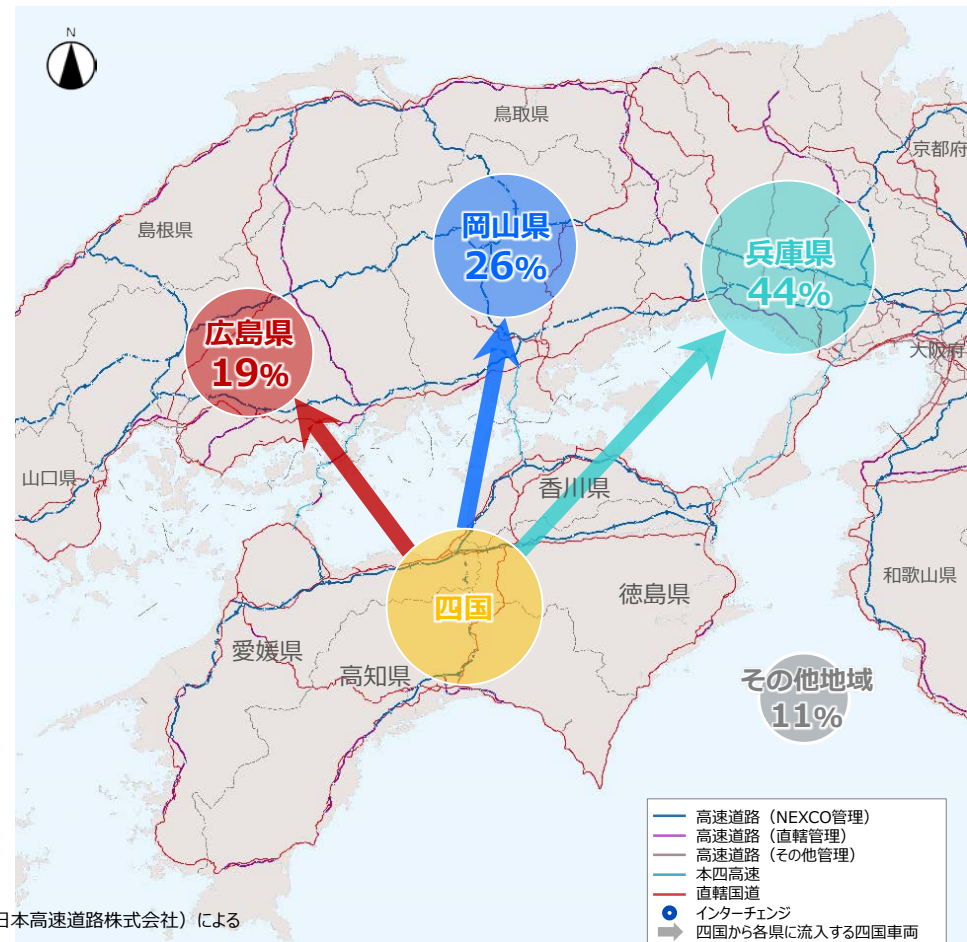
- 新型コロナウイルス感染拡大により、R1年度に比べ本四架橋を利用して本州へ渡った四国車両は**減少**しているが、**R4年度は約85%まで回復**（兵庫県:約84%回復、岡山県:約97%回復、広島県:約83%回復）
- R4年度の各県への移動割合は、**兵庫県:約44%、岡山県:約26%、広島県:約19%、その他:11%**となっている

四国から兵庫県・岡山県・広島県方面への移動

◆観光交通の変化（R1年度：R4年度）



◆R4年度の移動割合



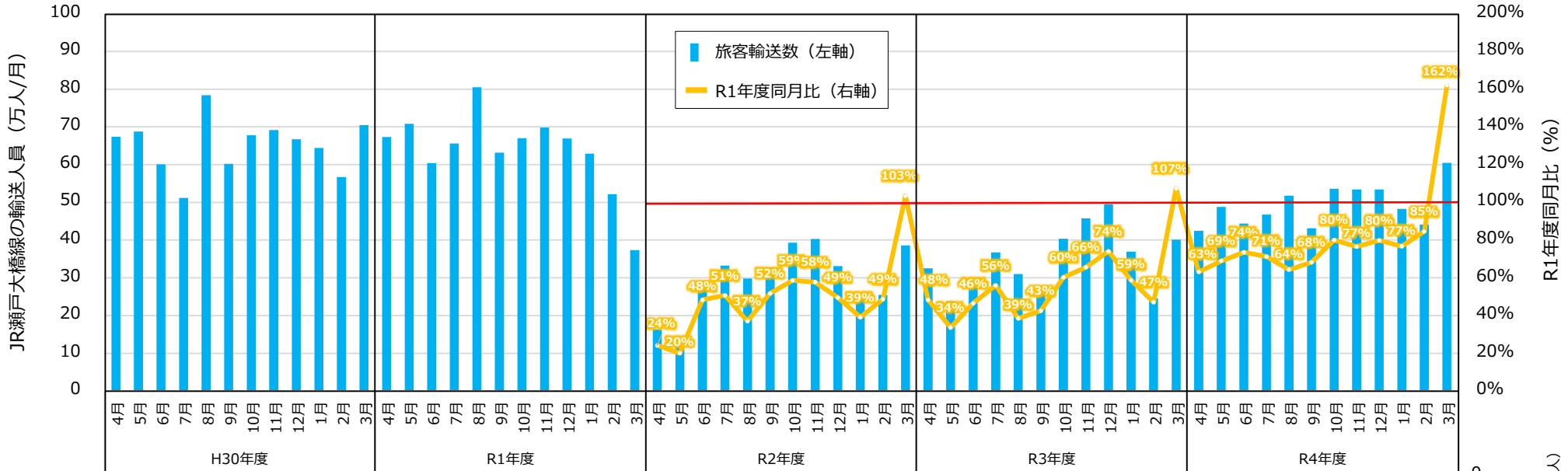
※データはR1年度及びR4年度の休日の軽自動車等（乗用）、普通車（乗用）（ETCデータ/本州四国連絡高速道路株式会社・西日本高速道路株式会社）による
 ※割合は、四国から兵庫県・岡山県・広島県のICに流出した四国内車両（車籍地にて四国内を判別）
 ※西瀬戸自動車道を利用した四国車両は、広島県で計上

四国～四国外における交通モード別交流人口の推移（鉄道：JR瀬戸大橋線）



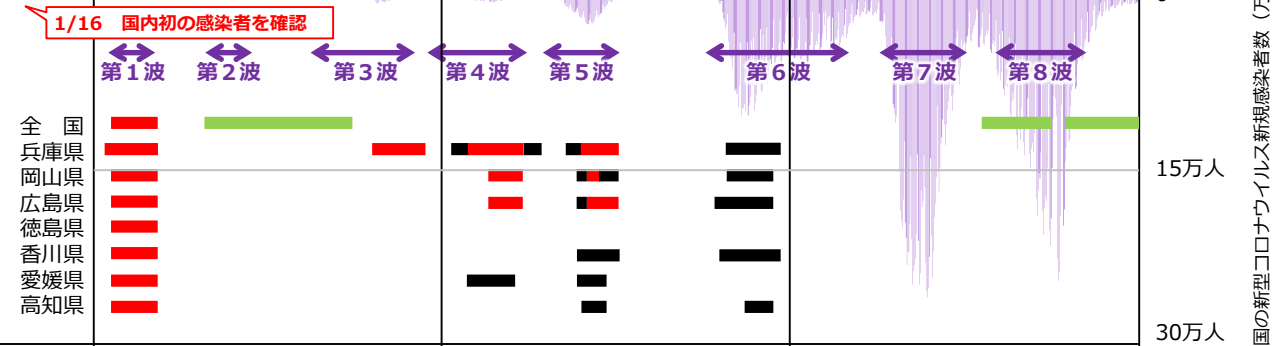
○R2年度以降、新型コロナウイルスの影響等に伴い増減を繰り返したが、R4年度はR1年度に対して回復傾向で、全国旅行支援が開始されたR4.10月以降は8割程度まで回復

●鉄道（JR瀬戸大橋線）の月別旅客輸送状況の推移



●全国の新型コロナウイルス新規感染者数と緊急事態宣言等の実施状況

- ：新型コロナウイルス新規感染者数 (全国)
- ：緊急事態宣言
- ：まん延防止措置
- ：GoToトラベル又は全国旅行支援



●新型コロナウイルスの影響により発生したJR瀬戸大橋線の運休状況 ※2

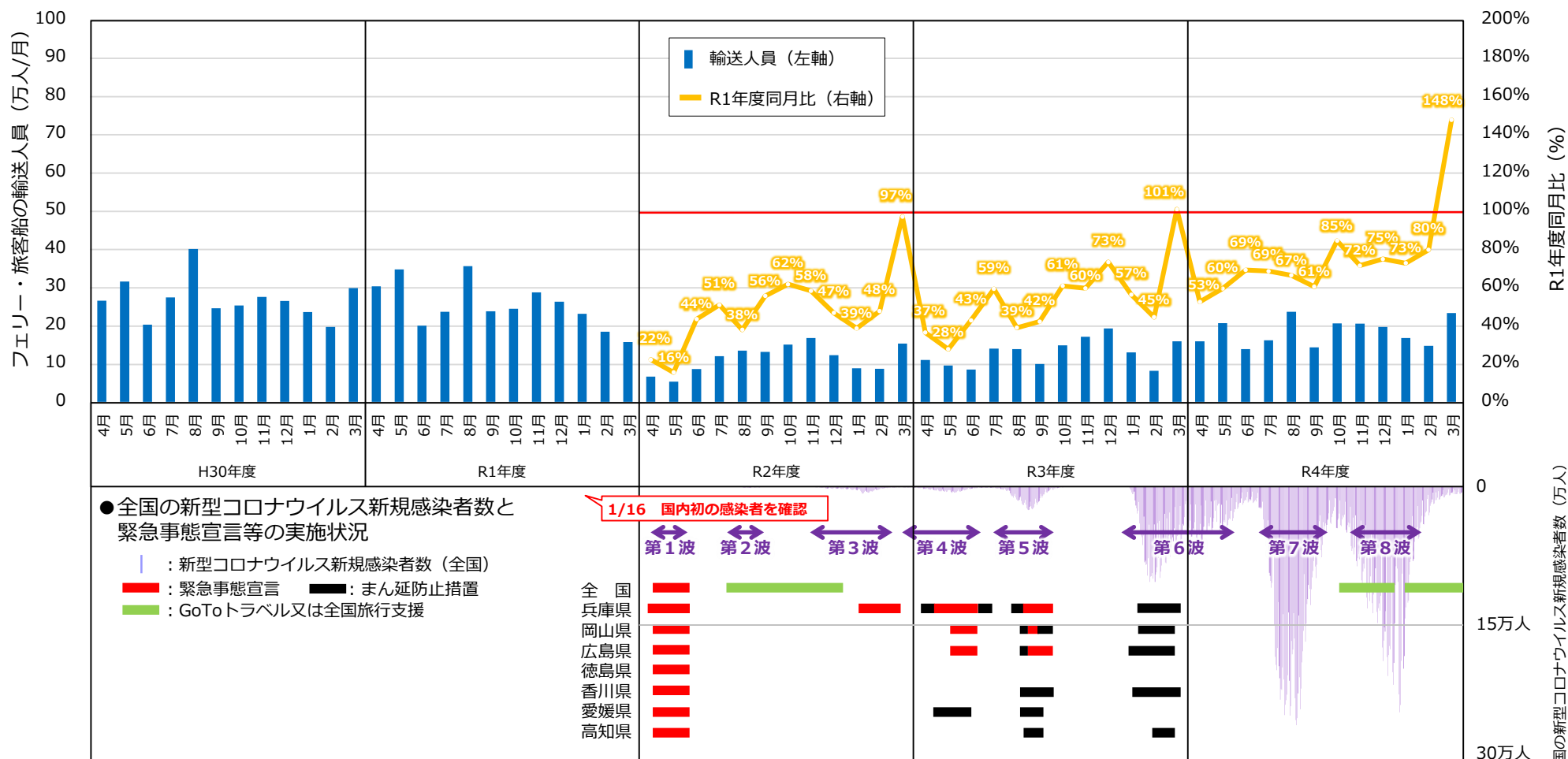
約3割が運休 (通常の運転本数 133本/日あたり 38本/日が運休)
5/16 6/12

出典) JR瀬戸大橋線旅客輸送状況/四国運輸局
 新型コロナウイルス新規感染者数/厚生労働省
 JR瀬戸大橋線の運休状況/四国旅客鉄道株式会社

四国～四国外における交通モード別交流人口の推移（フェリー・旅客船）

○R2年度以降、新型コロナウイルスの影響等に伴い増減を繰り返したが、R4年度はR1年度に対して回復傾向で、全国旅行支援が開始されたR4.10月以降は8割程度まで回復

●フェリー・旅客船の月別輸送人員の推移

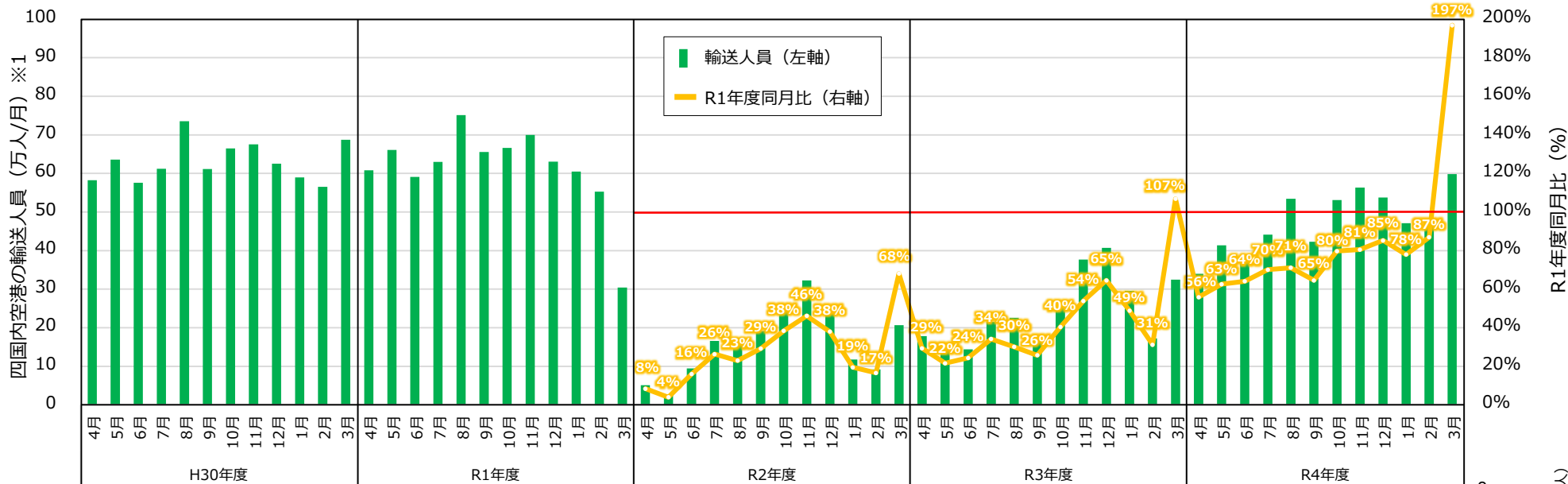


出典）フェリー・旅客船旅客輸送状況/四国運輸局
新型コロナウイルス新規感染者数/厚生労働省

四国～四国外における交通モード別交流人口の推移（国内航空）

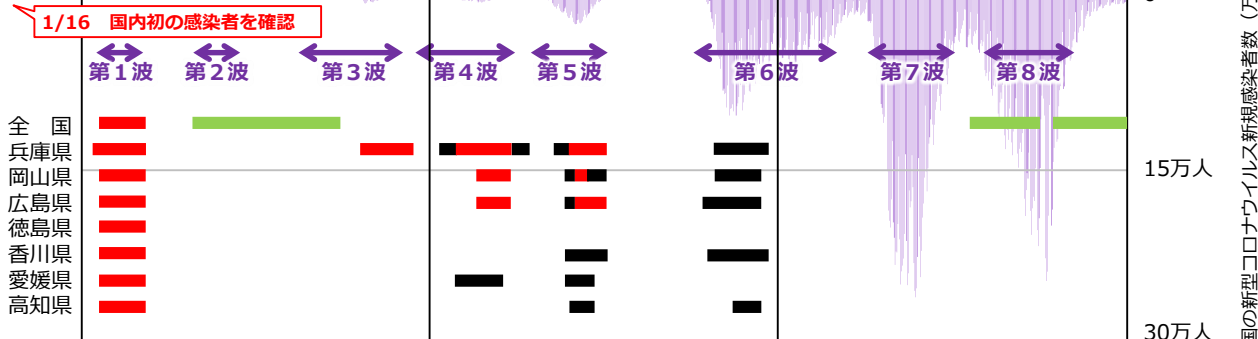
○R2年度以降、新型コロナウイルスの影響等に伴い増減を繰り返したが、R4年度はR1年度に対して回復傾向で、全国旅行支援が開始されたR4.10月以降は8割程度まで回復

●国内航空の月別輸送人員の推移

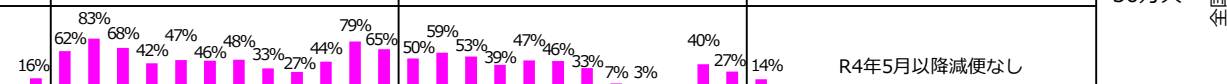


●全国の新型コロナウイルス新規感染者数と緊急事態宣言等の実施状況

- ：新型コロナウイルス新規感染者数（全国）
- ：緊急事態宣言
- ：まん延防止措置
- ：GoToトラベル又は全国旅行支援



●新型コロナウイルスの影響により発生した日本航空株式会社の四国～東京間の減便割合（%）



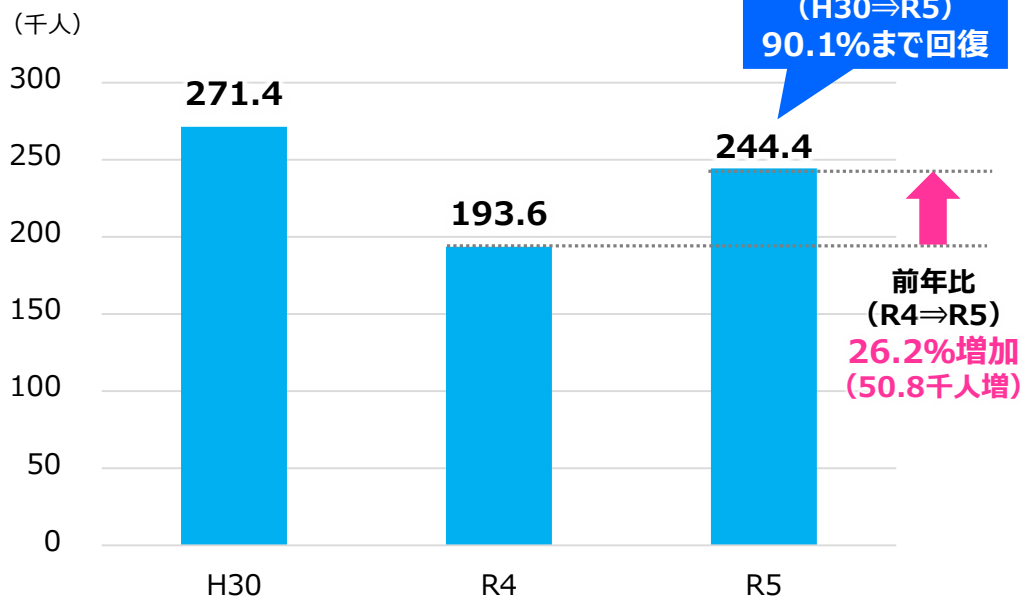
※1 月別の四国内空港の輸送人員は、以下の方法を用いて推計値として算出している
 （各年度旅客地域流動調査データ/同年度「四国における運輸の動き」データ）×同年度各月「四国における運輸の動き」データ=各月の推計交流人口
 なお、旅客地域流動調査は1年遅れで実績値が出るため、R4年度はR3年度のデータを用いて比率を算出

出典) 新型コロナウイルス新規感染者数/厚生労働省
 四国～東京間の減便割合/日本航空株式会社

R5ゴールデンウィーク期間における旅客輸送状況の変化（鉄道・航空）

- JR瀬戸大橋線の旅客数を比較すると、R5年度はR4年度に比べ、**約26%増**、コロナ前（H30）の**約90%まで回復**
- 全国における航空の旅客数は、R5年度はR4年度に比べ、**国内線：約16%増**、**国際線：約150%増**、コロナ前（H30年）と比べると、**国内線：約92%、国際線：約65%まで回復**

●JR瀬戸大橋線（四国～四国外）の旅客数の変化



【ゴールデンウィーク集計期間】

JR瀬戸大橋線（同曜日）：10日間
 H30：平成30年4月27日（金）～平成30年5月6日（日）
 R4：令和4年4月29日（金）～令和4年5月8日（日）
 R5：令和5年4月28日（金）～令和5年5月7日（日）

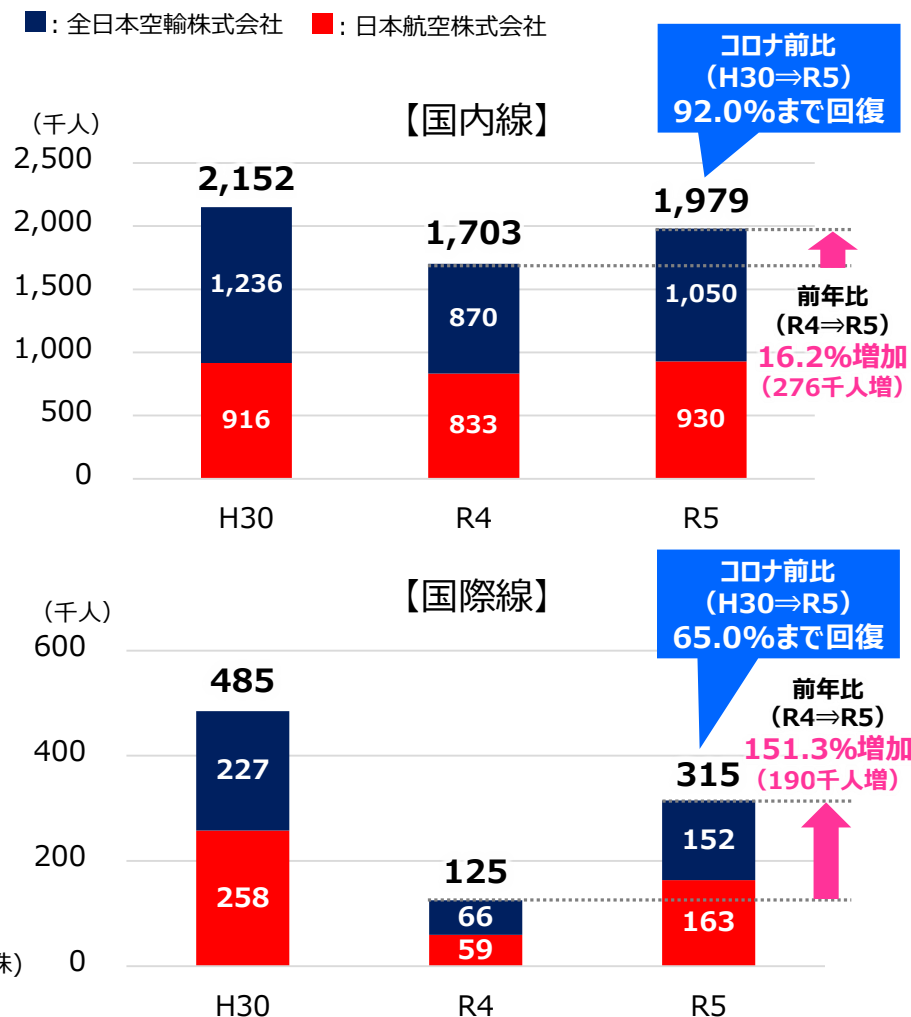
出典) JR瀬戸大橋線旅客数/四国旅客鉄道(株)

【ゴールデンウィーク集計期間】

航空（同日比）：9日間
 H30：平成30年4月29日（日）～平成30年5月7日（月）
 R4：令和4年4月29日（金）～令和4年5月7日（土）
 R5：令和5年4月29日（土）～令和5年5月7日（日）

出典) 航空旅客数/全日本空輸(株) 日本航空(株)

【参考】全国における航空の旅客数の変化



短期目標 コロナからの「観光需要の復興」を目指し、令和4年度までに令和元年度の交流状況（R1：6,110万人）以上に復興させる。

目標の達成状況

・令和4年度交流人口※速報値は5,316万人となり短期目標の87%まで回復するが**目標は未達成**

原因分析

- ・**新型コロナウイルスの感染状況**がR4も収束せず**交流人口に影響**
- ・平日交通は概ね回復したが、**休日交通は9割の回復**
- ・**環瀬戸内海地域※の休日交通は8～9割の回復**
- ・鉄道、フェリー、航空機も8割の回復

※：兵庫県・岡山県・広島県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県



中期目標に向けた今後の取組方針（案）

・**2025年大阪・関西万博を見据えた観光連携の取り組み強化等により環瀬戸内海地域を中心とした休日交通を回復させていくべき**